

これから中石の梨を作り

維持していききたい

就農したきっかけ

農業を始める前は会社員をしていましたが、平成8年に親の跡を継ぐかたちで就農しました。父親のときに手掛けていた面積は0.6haほどでしたが、離農する人から任されるなどして増えていき、今では2.7haまでになりました。品種は幸水や豊水、秋泉、あきづき、長十郎、南水など多様に扱っており、いつも忙しく過ごしています。

農業を続けてきて

農業は自然が相手ですし、梨は年がら年中やることがあるので、会社員と比べるとやっぱり農業は大変だなと思います。今は収穫が落ち着いたところですが、

が、実は冬がいちばん忙しく、剪定作業などを春先までびっしりやっても間に合わないくらいです。手が回らないときは、早く作業が終わった仲間に手伝ってもらっています。手伝ってもらうと自分も仲間を手伝おうと思えますし、地域で協力して農業に取り組んでいるなど感じますね。

これからについて

今後も美味しい梨を作り続けていくことが目標です。これからも息子夫婦が食べていけるように、子どもを安心して育てていけるように頑張りたいです。生産者のなかには80代で現役の人もいて、その姿を見ていると凄いなと思います。自分は生産

中石の梨

男鹿半島の北東部にある男鹿市五里合の中石地区。古くから梨の産地として名高く、その歴史は江戸時代にまで遡るといわれています。収穫シーズンの秋には出荷作業を行う農家や梨を買い求める人で賑わい、地域が活気に溢れます。



者のなかでは下から数えたほうが早いぐらいの年齢なので、まだ続けていききたいですね。それに、中石地区といえば梨。中石から梨をなくせば大変ですから。これからも中石の梨を作り続けて、維持していききたいです。

